

2

現況整理と将来見通し

2-1 現況

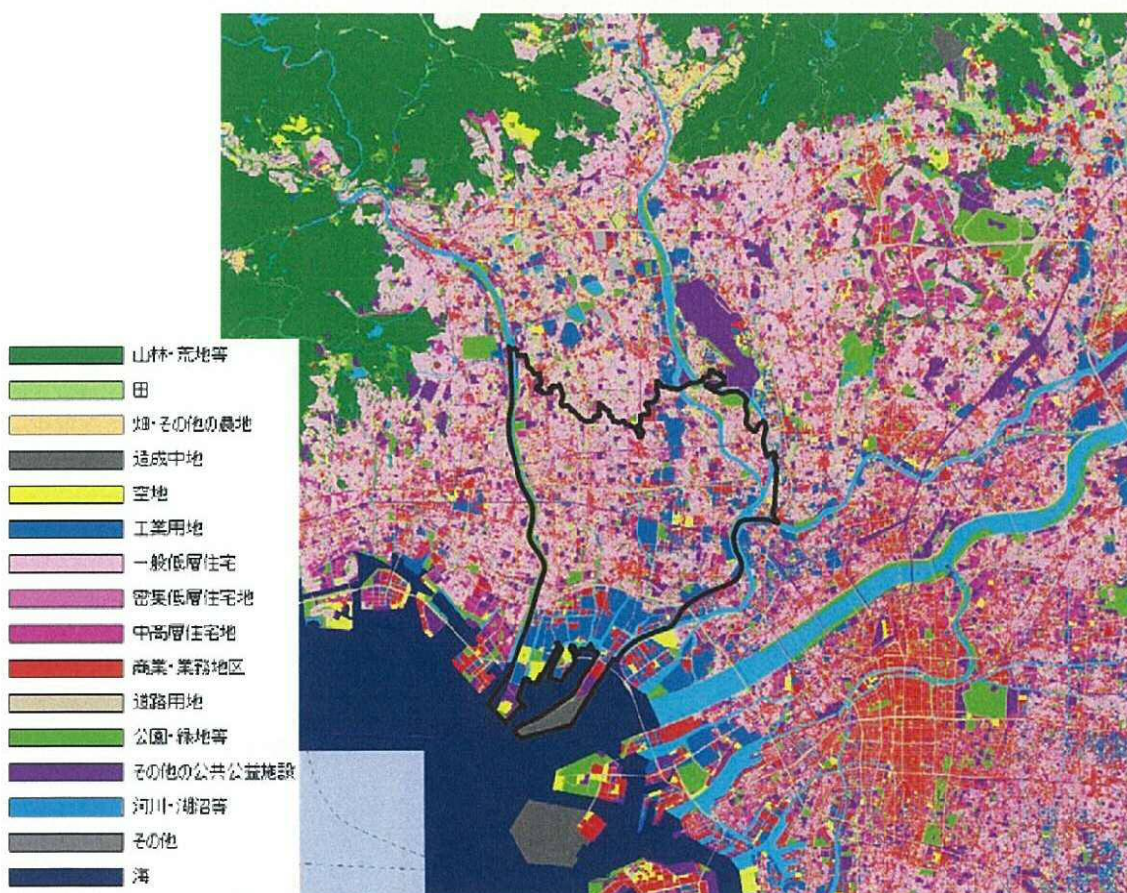
(1) 位置・地勢

本市は京阪神都市圏の一部で、近畿圏の都市機能の中枢が位置する大阪平野に位置しています。臨海部と JR 宝塚線、神崎川沿いに工業地が集積しており、阪神工業地帯の中核都市として発展してきました。

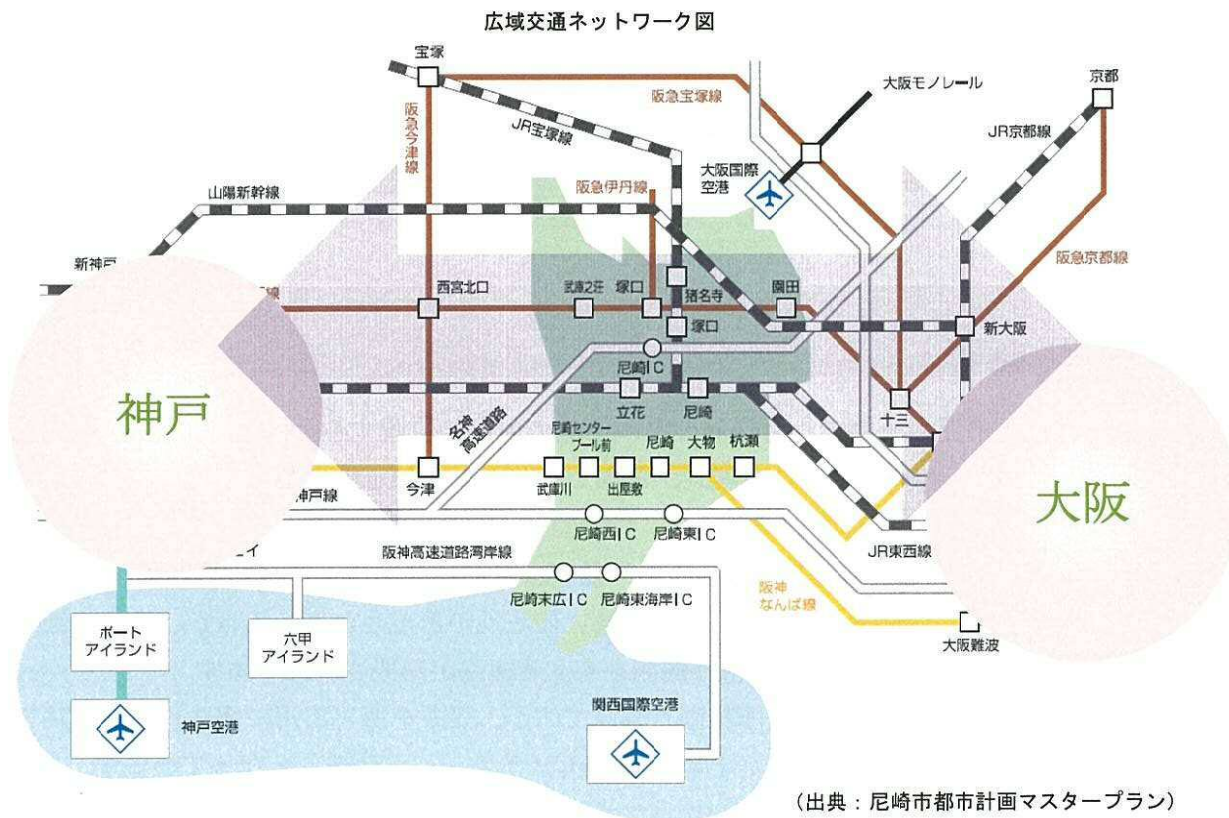
阪急、JR、阪神の 3 電鉄により、大阪と神戸並びに阪神北部地域と連絡しており、市内には 13 の鉄道駅があります。大阪等への通勤利便性の高い住宅地が形成されているほか、鉄道結節点である JR 尼崎駅周辺においては複合的な都市機能を有する拠点が形成されています。

地形は平坦で、自転車による市内間移動も容易ですが、三方を海と河川に囲まれ市域の約 3 分の 1 が海面（平均満潮位）より低い、いわゆる「海拔ゼロメートル地帯」となっています。

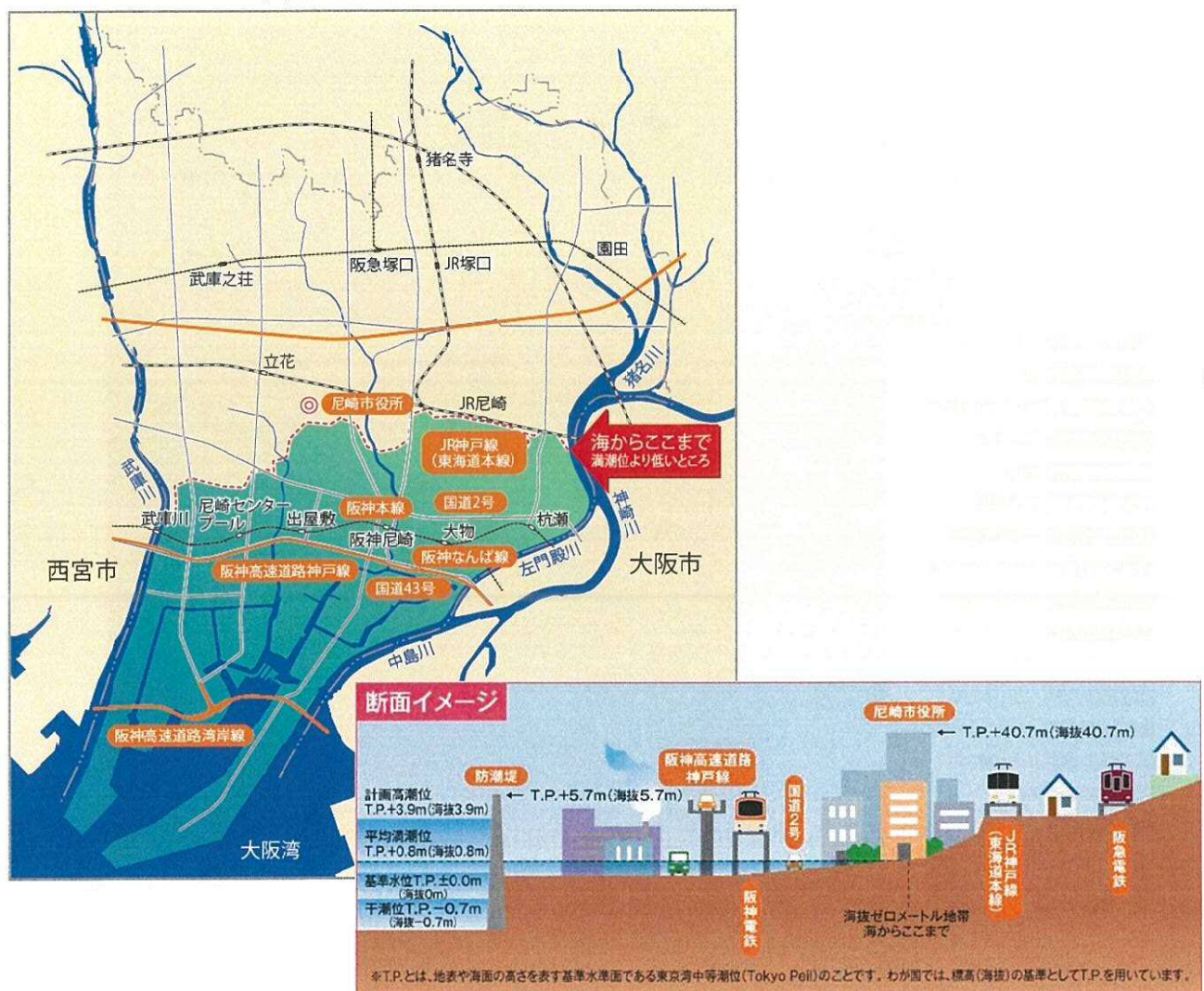
土地利用現況図（平成 20 年（2008 年））



（出典：地理院地図）



本市の地形・地盤高



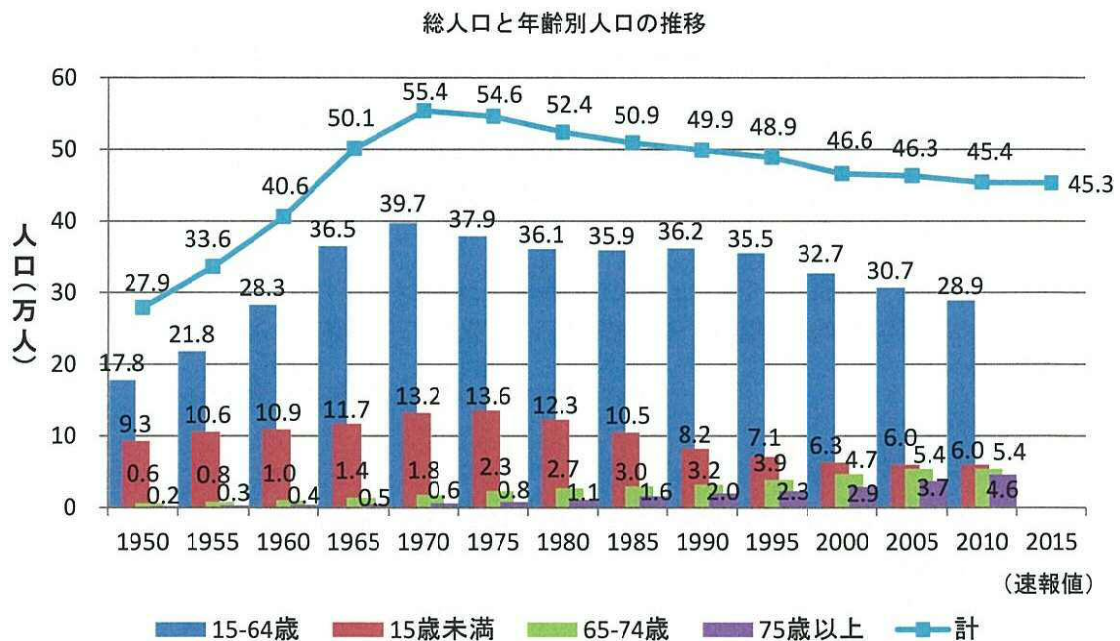
(出典：尼崎市地域防災計画 平成 27 年修正)

(2) 人口動向

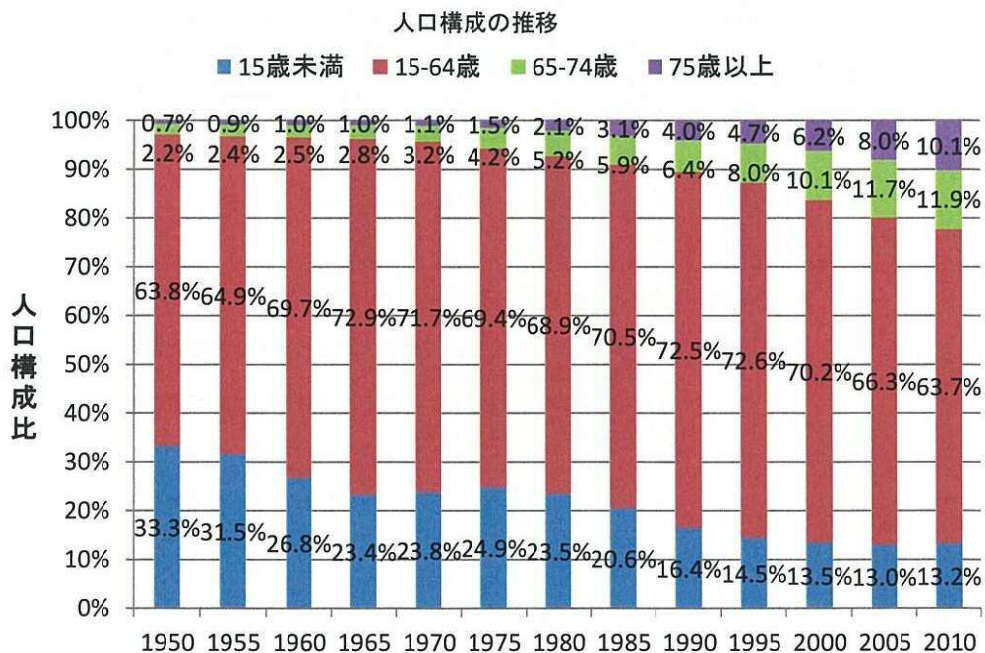
ア) 人口の推移

国勢調査によると、尼崎市の総人口は、昭和30年（1955年）ごろから急速に増加し、昭和46年（1971年）に約55.4万人でピークを迎えた後減少が続いており、平成22年（2010年）には約45.4万人と、ピーク時よりも約10万人減少しています。

人口構成を見ると、平成7年（1995年）には72.6%であった生産年齢人口の比率が減少を続け、平成22年（2010年）には63.7%まで低下する一方で、高齢者の比率は高まっています。



(出典：国勢調査)

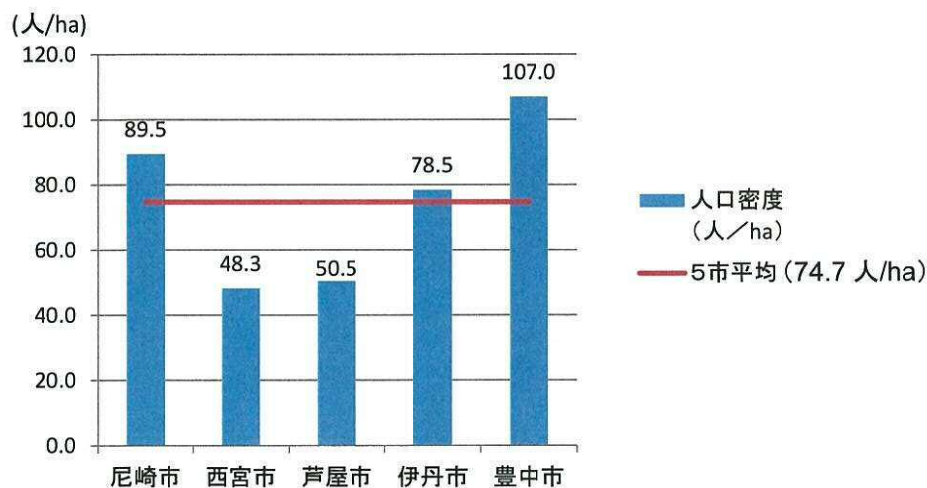


(出典：国勢調査)

イ) 人口密度

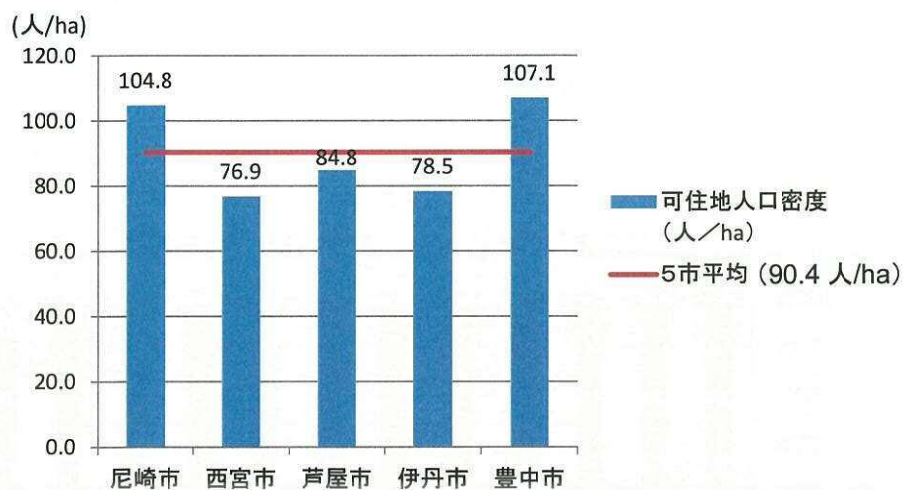
人口密度は、平成 22 年（2010 年）時点で 89.5 人/ha（可住地人口密度 104.8 人/ha）と、周辺 4 市（西宮市、芦屋市、伊丹市、豊中市）の平均 74.7 人/ha（可住地人口密度 90.4 人/ha）と比べ高くなっており、高密な市街地が形成されていることがわかります。

周辺 4 市との人口密度の比較（平成 22 年（2010 年））



（出典：国勢調査、統計で見る市区町村のすがた）

周辺 4 市との可住地※人口密度の比較（平成 22 年（2010 年））

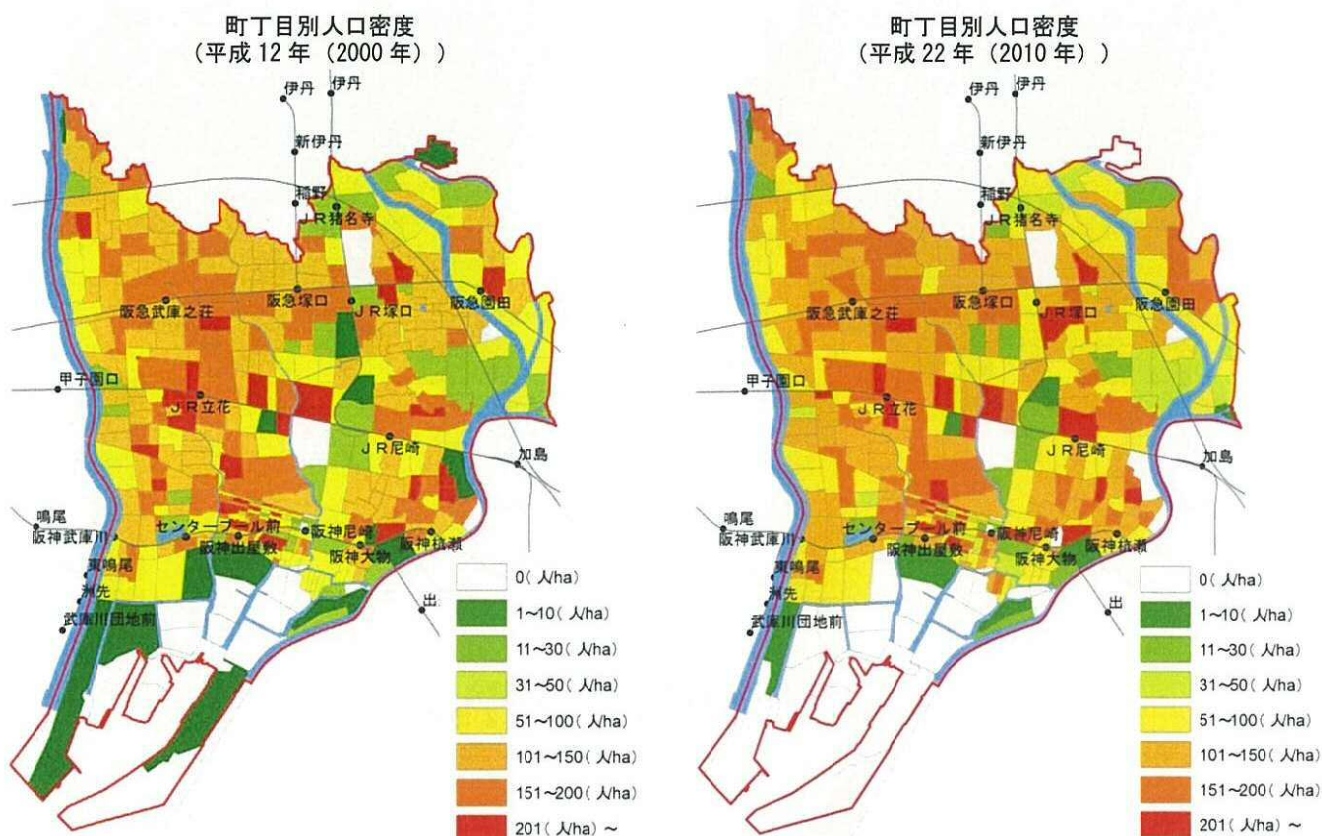


※可住地：総務省「統計でみる都道府県のすがた」による市域面積から林野、主要湖沼面積を引いた面積。
ただし、本市の実態に即し、ここではさらに工業専用地域の面積も差し引いた面積とします。

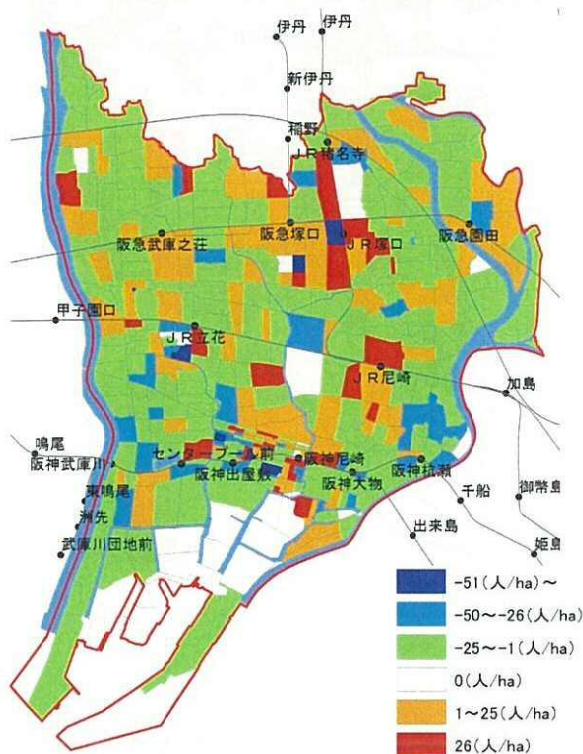
（出典：国勢調査、統計で見る市区町村のすがた）

町丁目別人口密度は、鉄道駅周辺において高く、市域縁辺部は低い傾向がありますが、人口密度が 30 人/ha 未満の地区は工業地や公共施設等、住宅以外の利用が大部分を占めています。

後期高齢者人口密度は、阪神沿線（尼崎駅、出屋敷駅、杭瀬駅）で高い地区が見られます。全体的に後期高齢者人口密度が高まっており、特に阪神や JR の駅周辺において人口密度の増加が顕著に見られます。

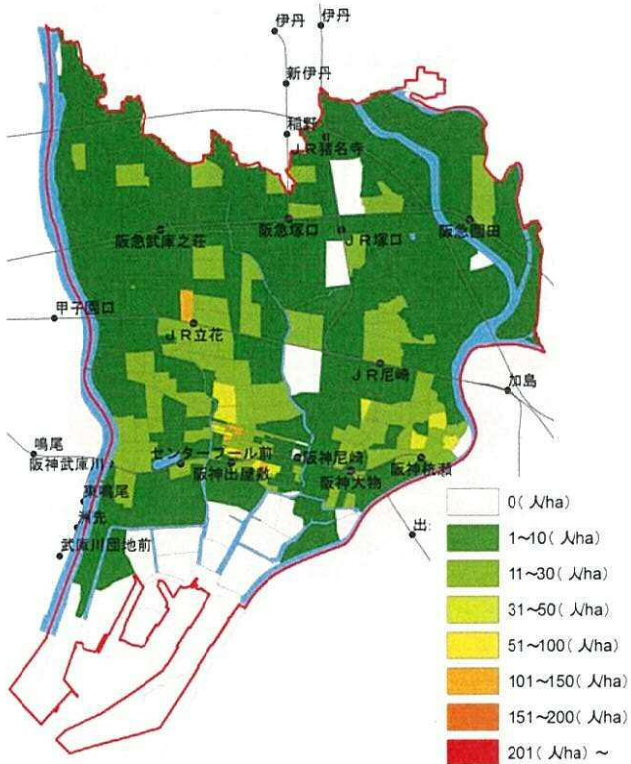


町丁目別人口密度変化
(平成 12 年 (2000 年) ~ 平成 22 年 (2010 年))

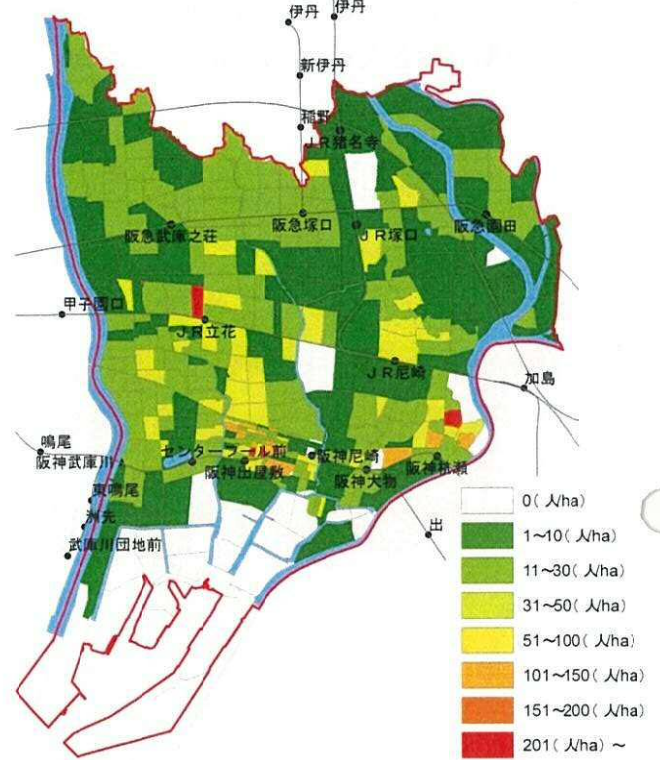


(出典：国勢調査)

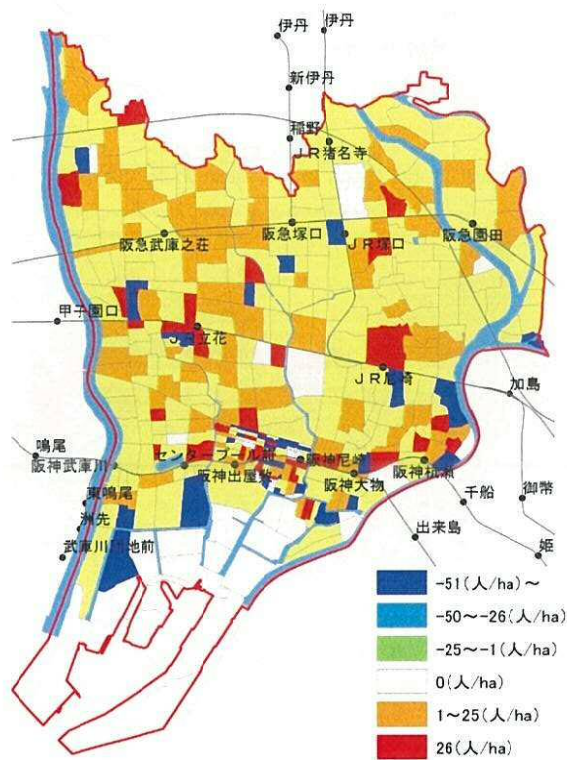
町丁目別後期高齢者人口密度
(平成12年(2000年))



町丁目別後期高齢者人口密度
(平成22年(2010年))



町丁目別後期高齢者人口密度変化
(平成12年(2000年)~平成22年(2010年))



(出典: 国勢調査)

ウ) 人口集中地区 (DID) ※

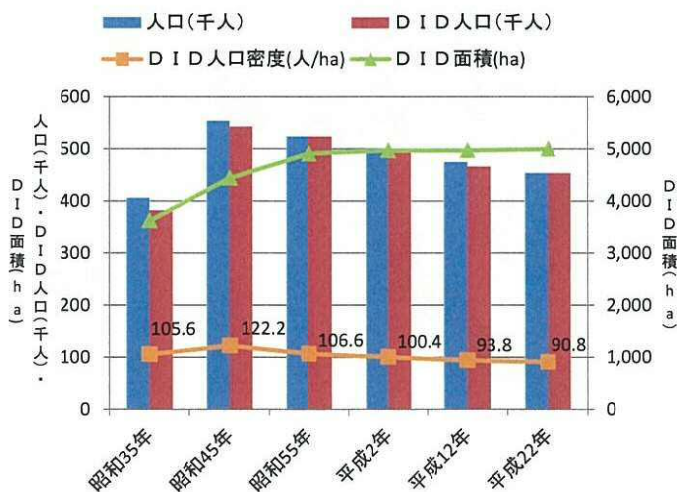
人口集中地区 (DID) は、昭和 35 年 (1960 年) にすでに市域の多くが DID で、人口密度が 100 人/ha を超えていました。人口密度は低下しつつありますが、平成 22 年 (2010 年) 時点で 90.8 人/ha と、依然高い人口密度を維持しています。

※人口集中地区 (DID) : 人口密度が 1 ヘクタール当たり 40 人以上を基本単位とし、隣接した地域の人口が 5,000 人以上を有する地域



(出典：国土数値情報)

DID 人口密度等の推移



(出典：国勢調査)

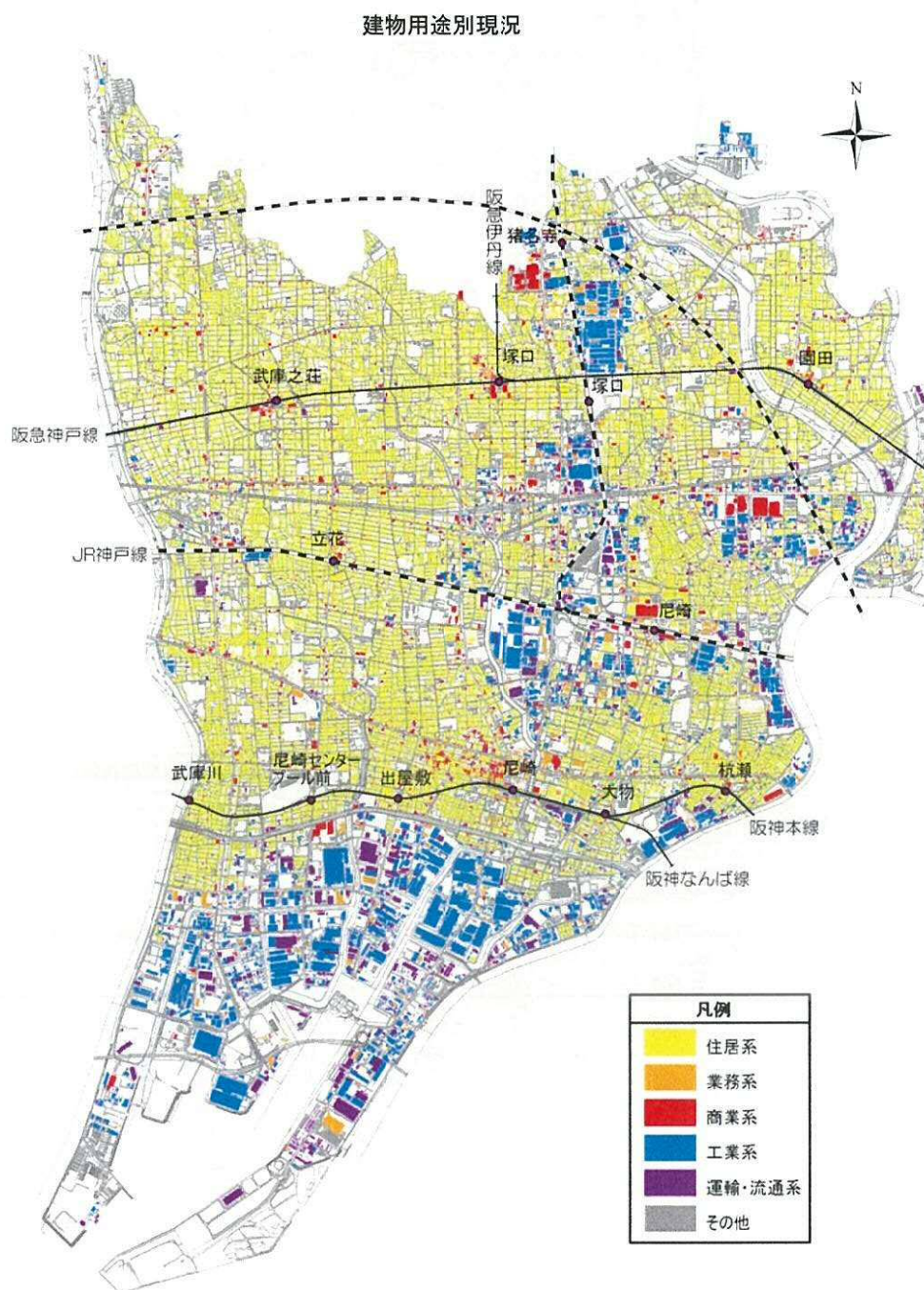
(3) 土地利用

ア) 建物用途別現況

臨海部には工業地、北部には昭和 30 年代以降に基盤整備を行いながら供給された住宅地が広がり、それらに挟まれた場所には古くからの住宅地が広がっています。

また、JR 宝塚線や神崎川沿いには内陸部工業地が広がっていますが、近年、工場跡地の商業施設や住宅への転換が見られます。

商業地は主に鉄道駅周辺、主要幹線道路沿道等に形成されています。



(出典：市資料)

イ) 農地の推移

農地は市北部や西部において、まとまって広がっています。

農家数及び農地面積は、年々減少しており、昭和 35 年（1960 年）からの 50 年間で農家数は 8 割以上、農地面積は 9 割以上減少しています。

